

## 久喜市社会教育委員協議会だより

7号 (会議日 R5・1・17)

令和5年2月1日発行

発行者 久喜市社会教育委員協議会

委員長 金子 雄司

令和4年度の締めくくり、第3回協議会が1月17日に西公民館で行われました。コロナとインフルエンザの感染予防が個々人の対応で進みつつありますが、規則正しい生活、家族や身近な人との連携・協力が対処法の根幹を為すと改めて思います。

会場の関係で今回は、午前中に視察研修、午後が協議会となりました。

協議会、情報提供は高橋委員から長年ご活躍されている「くきっ子ゆうゆうプラザ」について、報告がありました。久喜市のゆうゆうプラザのレジェンド「くきっ子」。高橋委員は平成15年の開設準備から始まり17年のプラザ開設を経て、今日までの20年間活動を支え続けられました。その間、くきっ子ゆうゆうプラザ第2代実施委員長としてリーダーシップを発揮されて、くきっ子発展の基盤づくりにも努められました。

市内最初の開設に向けての不安、それに対する情報収集、組織づくり、等のお話がありました。開設後18年の歩み、毎年の活動を通じて関係各位が「チーム くきっ子ゆうゆうプラザ」の担い手として連携・協働よろしく、くきっ子では内容が多種多彩なものとなり今日に至っております。

資料「くきっ子ゆうゆうプラザと私の歩み」では、高橋委員のゆうゆうプラザへの想いや熱情、方策、展望等が述べられました。

- 1 はじまり ～ ボランティア募集からの私の始まり ～  
「子供の居場所づくり」で始まる 運営委員会と実施委員会
- 2 組織 ～ サポーター、副実施委員長、実施委員長、実施委員、運営委員 ～  
放課後子ども教室運営委員会組織 くきっ子実施委員会組織
- 3 成果 ～ 埼玉県、国より表彰されました ～  
コロナ禍での活動の様子 学校教育・社会教育・家庭教育
- 4 悩み・問題点 ～ 情報交換会で悩み解決に希望 ～  
高齢化 実施委員不足 指導者不足 参加者減少

※ 国立青少年教育振興機構より ～「かわいい子には体験を！」のなかから～

- ①子供の頃の体験は、豊かな人生の基盤となります。
- ②子供の頃は家庭や地域などで様々な体験をすることが大切です。
- ③日本の伝統的な作法や教養も子供の頃の体験と関係しています。
- ④中学生になってもお手伝いや地域活動が効果的です。
- ⑤自然体験や友達との遊びが減っています。

協議では、事前に提出された各報告書を元に、担当グループごとに話し合いを進めました。調査対象ごとに担当者がまとめられていますので、今後はそれぞれの特長や課題、方策等のまとめになります。提言書は来年1月までに完了し、その後久喜市に提出する予定です。

視察研修は、久喜市の「学校給食センター」を委員14名で訪問しました。本来は、旧社会教育委員で伺う予定でしたが持ち越しとなり、今回の実現です。参加者の殆どが初訪問。しかもご自身の小・中学校時代や現在の学校給食に対する想い、期待感、わくわく感に満ち溢れ、話題も弾んでおりました。

当日、学校給食センター所長 山口裕次様、栄養士 沼尾咲季様には、懇切丁寧にお話をいただき厚くお礼申し上げます。お二人の学校給食への熱情と至誠、社会教育委員の多くの質問や意見への的確な応答、等がとても素晴らしく、学ぶこともたくさんありました。

10時に始まり、DVD研修・調理現場見学・各校への配缶準備見学・試食・意見交換・等と盛り沢山。終了時刻の12時半をあっという間に過ぎてしまいました。

一日に1万食以上で3献立、職員100人以上で進める給食日の作業。「徹底した衛生管理システム」「最新の厨房機器」の2つの特長。「地産地消の推進」「食物アレルギー対応食の提供」の2つの重点取組み。職員の皆様の一丸となった給食づくりに、子供達の健康な食生活づくりへの想いに、久喜市民として感謝申し上げます。

参加した委員から、次に給食センターを訪問する機会があれば、  
「カレーライスの日、是非とも行きたい」との声が、多くありました。

□ 情報提供 「くきっ子ゆうゆうプラザと私の歩み」

1 資料抜粋

- ① 「くきっ子ゆうゆうプラザと私の歩みについて」
- ② 「くきっ子ゆうゆうプラザ」 — 2種類
- ③ 「久喜市放課後子ども教室運営委員会」

2 意見交換

- ① 子供達のためにたくさんの方が活動している姿に感動しました。
- ② 学校教育と社会教育の連携が重要だとわかりました。
- ③ ゆうゆうプラザ以外でも、両教育の連携・協働が益々重要になってくるのではないかと。

□ 協議 調査票「青年(青少年)教育・青年(青少年)活動について」  
「青年教育・青年活動に係る調査等の今後の進め方等」について意見交換